

よろずは

平成二六年

三月号

歌碑めぐり 7

君を待つ 松浦の浦の 娘子らは 常世の国の 天娘子かも

(訳) あなたを待つという松浦川の浦の少女たちは、神仙の国の

天女たちですね。

(巻五・八六五)

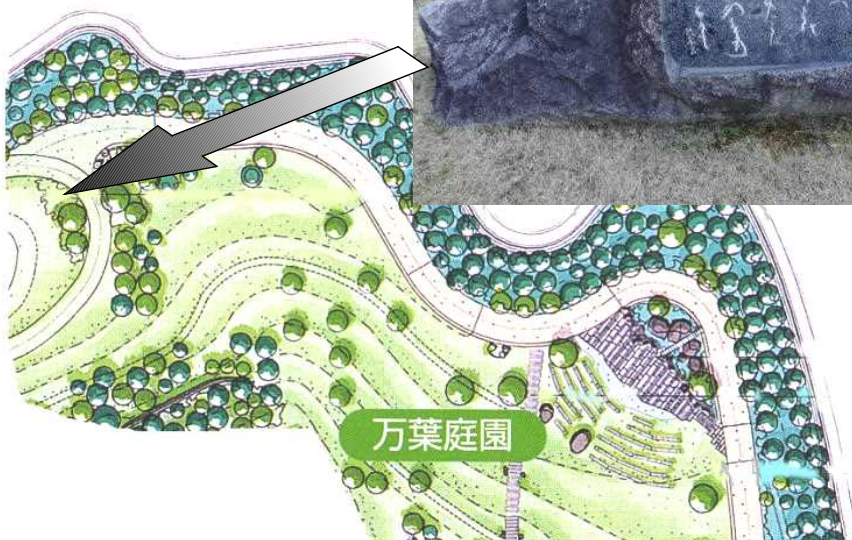
松浦川は佐賀県唐津市浜玉町を流れる玉島川たましまのことで、現在の松浦川とは異なります。この川は『古事記』にも登場し、神功皇后が裳の糸を抜き取って飯粒を餌にして鮎を釣ったため、四月上旬になると女性たちが同じようにして鮎釣りをするようになった、と記されています。常世の国は不老不死の世界で神仙の住む国のことです。この歌では松浦川にいる女性たちを仙女に喩えています。

歌碑の揮毫者は松塚玲糸氏まつづか れいしです。歌碑の近くには飛鳥時代の方形池の遺構があり、庭園内ではこれを常世の海に見立てています。歌碑とあわせてご覧ください。

【万葉古代学係】

※ 万葉文化館の万葉庭園に立つ歌碑のご紹介は今号で最後になります。

他は、平成二五年三月号・同年六月号・同年九月号・同年一二月号をお読みください。



タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。